
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 399 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.04.24（月）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 976 部*****

▽5月20日（土）第158回 定例研究会を行ないます！

今回のテーマは「『農の営み』から現代社会をみる—アフリカと日本へのま
なざしから」です。講演者は、勝俣誠氏（明治学院大学名誉教授）です。

アフリカ地域と埼玉県ときがわ町という2つのフィールドを行き来する国際政
治経済学・南北問題の研究者による、「農の営み」という視点から、豊かさ
は何か、現代社会の歪みの構造とは何なのかを問う企画です。研究会後半では、
参加者による意見交換会を行ないます。

会員外の方の参加もお待ちしております。下記「講演者・勝俣誠氏からのメッ
セージ」も参照ください。

■研究会概要

[日時] 2017年5月20日（土）14:00～17:30

14:00～14:15...所長挨拶ほか 14:15～15:45...講演

15:45～16:15...質疑応答 16:15～16:30...休憩

16:30～17:30...意見交換会 18:00～...懇親会

[場所] 東京都中野区本町1丁目32番2号 ハーモニータワー20階

[アクセス]

(1)地下鉄（東京メトロ）丸の内線 中野坂上駅下車 1番出口から徒歩3分

(2)地下鉄（都営）大江戸線 中野坂上駅下車 1番出から徒歩3分

※駅から会場までの地図 http://www.yamazaki-i.org/img/Yama_Map.pdf

[参加費] 500円（資料代）、懇親会費4,000円（希望者のみ）

[参加申込み先]

eMail : y.masunaga@ntc-c.co.jp TEL : 080-2061-4227（事務局・益永）

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 農業の AI 化、ICT 化の流れに思うこと 渡邊 博

<第 158 回 定例研究会 (05/20)> 講演者・勝俣誠氏からのメッセージ

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.140』発行されました

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』

<編集後記> 「からだ・いのち」をどうとらえるか

<巻頭言> 農業の AI 化、ICT 化の流れに思うこと

農業の現場では経験ある農家が少なくなり、技術の伝承が大きな問題になってきているが、これを補うために、AI（人工知能）や ICT（情報通信技術）を利用した知的データベース「農の匠の技」の整備や農業機械のロボット化が進められている。私もその仕事に少なからず関わっているが、一方ではコンピュータよりもはるかに高い能力を持っているはずの人間が何故コンピュータの力を借りなければならぬのか、疑問に思うこともないわけではない。

人間の脳の記憶容量は 125 億テラバイト、録画時間にして 1 億 2 千時間程度だそうだ。毎日 24 時間録画を再生しても 1400 年もかかる計算になる。飛鳥時代から見続けていないと見きれないほどの時間である。処理能力は 1 秒あたり 6.4×10^{18} 乗回で、全世界の情報機器類の能力の総量と 1 人の脳の処理能力はほぼ同じらしい。これだけの能力を使いこなすためにはとてつもないエネルギーが必要なため、無意識のうちに情報の取捨選択や、曖昧さを許した処理を行い、脳がパンクしないようにしている。

実はコンピュータでも同じことが起きる可能性がある。コンピュータが人間の脳と同じ処理能力を使って曖昧さを許さない厳密な処理を行うとしたら、とてつもない非現実的な電力を必要とする。そのため、最近の AI 研究の流れは人間の脳と同じような思考をするコンピュータの開発に向いているようである。厳密な処理を行う専門に特化した AI と、曖昧な処理を行うより人間的な AI に 2 分化していくのであろうか。

農業の現場がどんなに自動化、AI 化、ICT 化されたとしても、農家が家の中で 1 日中休んでいることなどできるだろうか？ 作物はちゃんと育っているか、病気は発生していないか、水は来ているかなど、心配ごとは絶えない。“ICT の利用によってずいぶん助かる部分もあることは確かだが、パソコンやスマフ

オの情報では感じる事が出来ない現場の「匂い」というものが現地には確実にある”、実証試験中の農家の人の話を聞くと、そういう声が少なからずある。

人は、自然や人のつながりの匂いや空気感、伝統や文化、あるいは労働の喜びなどを「何となく感じて」処理する能力を持っている。大量のデータの処理や精密作業、あるいは危険な作業などはコンピュータやロボットに任せるとして、感覚を研ぎ澄ませた「農の匠の技」は人間にしかできない技ではないかと思う。

渡邊 博

山崎農業研究所事務局長

yamazaki@yamazaki-i.org

<第 158 回 定例研究会 (05/20) > 講演者・勝俣誠氏からのメッセージ

私には 2 つのフィールドがあります。ひとつはアフリカ地域、そしてもうひとつが埼玉県のときがわ町（旧都幾川村）です。アフリカ地域には国際政治経済学・南北問題の研究者として 40 年以上関わってきました。そしてときがわ町には東京から移住して 15 年以上になります。ときがわ町では、小さな農地と森をもっています。半農半 X 的暮らしです。

最近気になって仕方がないのが、日本社会における貧困や格差の問題です。しかしこれらの問題は日本だけのものではありません。貧困や格差は世界規模の問題になっています。そして日本社会においてより問題だと感じているのが、生きづらさや生き苦しみの感覚です。貧困、格差、生きづらさなど、これらは「豊かさとは何か」という問いと深く結びついています。しかし私の専門である社会科学の概念や用語は、この「豊かさとは何か」という問いに答えるには、いささか不十分であることを痛感します。人間の定義にかかわる「豊かさ」のもつ価値が一体何であるのかを語るのは不得意です。

そこで私が注目してきたのが「農の営み」という視点です。「農の営み」をひとつのレファレンス=参照基準にする、社会を捉えるうえでの立ち位置をまずは決めてみる、そしてそことのズレから社会を捉え直してみる、という方法論です。「農業」ではなく「農の営み」というのはなぜか。「農業」というとどうしても産業論・経営論・技術論に限定されがちです。そうではなくて、も

っと深いところにある人間にとって大切なモノやコトは何かという価値の点から考えてみたい、そこから、豊かさとは何かという問いにも接近できるのではないかと考えたのです。

「農の営み」という視点は、アフリカ地域とときがわ町という2つのフィールドを行き来するなかからつかんだものでもあります。今回の研究会では、アフリカ地域の現状についての観察から、もっといえば私がアフリカ地域の「農」なるものから学んだことを入口にしたいと思います。そしてそこに日本のときがわ町での経験を重ね合わせることで「農の営み」の意味を明らかにし、そこから、現代社会のもつ歪みの構造とは何なのか、豊かさとは何かについて考えてみたいと思います。

研究会の後半では、専門を異にする方々との対話と討論を通じて、現代社会のかかえる問題にどう私たちは向かいあうのかという方途を見出していきたいと思っています。たくさんの方々とお会いできることを楽しみにしています。
(明治学院大学国際平和研究所にて 2017年4月19日談)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.140』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.140』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》(巻頭言)

先生は忙しすぎる◎高梨雅人

[第155回定例(現地)研究会] 玉川上水を巡る

玉川上水と武蔵野台地の変貌◎渡邊 博

玉川上水の奇跡「ひとくい川」◎安富六郎

[第156回定例研究会] 自然災害と文化・技術

I 「地震・雷・火事・親父」考◎大橋欣治

[特別寄稿]

人の生活の身近にあった水辺環境を取り戻すたかひ◎石川幹子
美しい福島の農村を取り戻すために◎浅見彰宏
FECの自給をめざして、とくにEのこと◎鈴木孝夫

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(11)
農の本質への道／宇根 豊

<会員著書案内>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』
農文協、199ページ、定価1700円(税別)

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

※山崎農研HPに関連記事を掲載しています。

玉川上水の奇跡「ひとくい川」(第3話)連載 安富六郎 著

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No10.pdf 第8話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No9.pdf 第7話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No8.pdf 第6話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No7.pdf 第5話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No6.pdf 第4話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No3.pdf 第3話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No2.pdf 第2話

http://www.yamazaki-i.org/img/Hitokui_No1.pdf 第1話

<編集後記> 「からだ・いのち」をどうとらえるか

同世代(50代)で話しているとけっこうな頻度で話題になるのが、健康問題として親の介護の問題である。歳をとってからの健康問題のなかでは、認知症や脳梗塞がとくに心配される。

認知症にならないために有効なのが鍼灸指圧、というのは残念ながらほとんど知られていない。

静岡県牧ノ原市で鍼灸治療院を開業されている今村光臣氏は自身のブログ「養生法の探究」

<http://kouhakudou.blog.fc2.com/>

で、認知症—だけでなく各種疾病—予防と鍼灸指圧の関係について懇切丁寧な解説とラディカルな提言を重ねている。

認知症の原因物質は脳内に蓄積される変性タンパク質（アミロイドβタンパク質）である。お灸によって活発に分泌されるヒートショックプロテインの免疫活性効果で、脳内マクロファージが元気になりアミロイドβタンパク質は貪食される。こんな話を「はるかなる道」

<http://kouhakudou.blog.fc2.com/blog-entry-1496.html>

ほかでされている。

また「命の場」

<http://kouhakudou.blog.fc2.com/blog-entry-1497.html>

では、脳梗塞について触れており、「(脳梗塞)発症後2週間以内に、なるべく早く『指端の灸』という手足の指先に灸を据える方法が書かれている」と、先達の残した書籍を紹介されている。

医療費の増大が問題と言われるようになって久しい。日本の場合、そこに少子高齢化問題がおおきく関わる。しかしそこでの取り上げられ方をみると、ふえる高齢者、高齢者は医療費が高額になる、負担能力が乏しい高齢者—だから問題なのだ、という論調がほとんどだ。

今村さんは「未病治=いまだやまいならざるをちす」が大事だという。日々の養生をつうじて人間のからだ・いのちのもつ免疫力の増強につとめることが大事だと。そしてそれに大きな役割を果たすのが、鍼灸指圧だと。

ちなみに今村さんのおばあさんは、鍼灸指圧をうけつづけ、大病を患うことなく、認知症にもならず、元気によく食べ、よく動き、98歳の大往生を遂げたという。

医療費の増大は、近代医療の先進化・高度化ともふかく結びついている。とともに介護費用の増大も問題だ。その一方で、鍼灸指圧に代表される東洋医学、ヒトの生命力=免疫力の向上に重きをおいた伝統医療は隅っこのほうに追いや

られている。このことのほうが問題なのではないだろうか。

2017年04月24日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』

<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名(見出し)を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字(機種依存文字)のチェックを。

http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 400号の締め切りは05月08日、発行は05月11日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第399号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.04.24（月）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』*****